

科目分類	専門職の教育			開講学科	医療栄養学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
13085	3	前期	必修	1	45
授業科目名 (英文)	栄養教育論実習Ⅱ (応用・症例に基づく栄養教育) (Practical Training on Nutrition Education Part Ⅱ)				
担当教員名	齋藤 さな恵				
授業の概要及び到達目標					
<p>傷病者の身体状況・病態、薬剤の服用状況、摂食機能や要介護度等、生活・居住環境、およびその栄養評価と栄養診断に基づいた、栄養教育プログラムの計画・立案、実施、評価を実習し、栄養教育の実践能力を養う。特に、調理を伴う栄養教育や、医療面接や特定保健指導などを想定した模擬患者を導入したカウンセリング・コーチング技法を身につける。</p> <p>到達目標：傷病者に対する栄養教育プログラム作成に関するスキルを習得し、また、カウンセリングの基本的技術を体験的に学習することである。</p>					
準備学習等					
<p>疾患別の栄養教育や模擬患者を導入した医療面接等、実践的に栄養教育を学習するため、各疾患の食事療法や栄養管理、カウンセリング技法について予習・復習を十分行うこと。</p> <p>第1～4回：臨床栄養学Ⅰで学習した病態および栄養管理について復習しておく。</p> <p>第5・6・8回：カウンセリングの基本と栄養教育について予習しておく。</p> <p>第9～12回：栄養食事指導において必要な確認事項とその質問方法について復習しておく。</p>					
成績評価の方法	授業態度（出席状況、グループワークへの参加度）：50%、 課題およびプレゼンテーション（模擬患者に対する栄養教育を含む）：30%、 実技試験：20%				
テキスト	①「実践に役立つ栄養指導事例集」（井川聡子他：理工図書 （ISBN：978-4-8446-0870-7）） ②「新版ヘルス 21 栄養教育・栄養指導論」（辻とみ子他：医歯薬出版 （ISBN：978-4-263-70718-0））				
参考図書	①日本人の食事摂取基準 2015 版：第一出版（ISBN 978-4-8041-1312-8）※ ②「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第一出版（ISBN 978-4-8041-1179-7）※				
備考	○期限を守って課題を提出すること ○グループワークへ積極的に参加すること ○本科目の受講には栄養教育論Ⅰを理解していることが前提となるので十分に復習してから受講していることが望ましい。 ○オフィスアワーは desknet' s の一覧を確認すること。 ○卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図を確認すること。				

授 業 計 画

- 第 1 回：集団を対象とした疾患別栄養教育プログラム①
・計画・立案（アセスメント、優先課題の決定、目標設定）
- 第 2 回：集団を対象とした疾患別栄養教育プログラム②
・計画・立案（計画書の作成）、教材作成
- 第 3 回：集団を対象とした疾患別栄養教育プログラム③
・教材作成
- 第 4 回：集団を対象とした疾患別栄養教育プログラム④
・グループ毎のプレゼンテーション
- 第 5 回：医療面接技法を用いた栄養教育①
・栄養カウンセリングの理解
- 第 6 回：医療面接技法を用いた栄養教育②
・栄養教育に必要な情報収集
- 第 7 回：3・1・2 弁当箱法
・3・1・2 弁当箱法を活用した栄養バランスの考え方
- 第 8 回：医療面接技法を用いた栄養教育③
・グループ毎の栄養教育の演習
- 第 9 回：OSCE を模した演習①
・模擬患者に対する栄養教育の実施
- 第 10 回：OSCE を模した演習②
・模擬患者に対する栄養教育の実施
- 第 11 回：OSCE を模した演習③
・模擬患者に対する栄養教育の実施
- 第 12 回：OSCE を模した演習④
・模擬患者に対する栄養教育の実施

※実習の時間数・回数は 180 分×12 回とする。